

# 肺癌周術期における人参養栄湯投与例

神戸大学大学院 医学系研究科外科学講座 呼吸器外科学分野(兵庫県) 光井 卓、田中 雄悟

肺癌や縦隔腫瘍は高齢者に多いことから、周術期フレイルが重要な課題となっており、このような状況における支持療法の一つとして人参養栄湯が注目されている。人参養栄湯は、病後・術後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振などに古来より用いられている漢方薬である。本稿では、肺癌および縦隔腫瘍の術後に全身倦怠感や体重減少、食思不振などの症状の改善を目的に人参養栄湯を用いた3症例を供覧し、肺癌周術期の治療における人参養栄湯の可能性について考察した。

**Keywords** 人参養栄湯、肺癌、周術期

## はじめに

肺癌や縦隔腫瘍に対する外科治療は比較的高齢者に行われることが多い。胸腔鏡下手術、ロボット支援下手術の増加に伴い低侵襲な外科治療が可能となっており患者の術後回復に貢献しているが、呼吸機能や運動耐容性の低下は避けられず、手術を契機にフレイル(全身虚弱)状態となり元の生活機能を維持することができなくなる症例もある。原発性肺癌の術後症状を改善する方法の1つに呼吸・運動リハビリテーションがあり、術後合併症発生の予防、術後早期の身体活動の回復促進を目的として行われる。しかし、リハビリテーションを実施しても術後の状態低下は完全には避けられず<sup>1)</sup>、新たなアプローチが必要である。われわれは、肺癌および縦隔腫瘍術後に全身倦怠感、体重減少、食思不振といった症状改善目的で人参養栄湯を用い、状況が好転した症例を経験したためその症例について紹介する。

## 症例1 57歳 女性(図1)

**【現病歴】** 虚血性腸炎の疑いで前医を受診した際に、画像検査で右下葉結節影を指摘された。気管支鏡検査を試行したところ結果は陰性であったが、病変増大傾向のために原発性肺癌の疑い(cStage1A1)でロボット支援下右下葉切除術を施行した。

**【既往歴】** 頸椎ヘルニア、喘息、虚血性腸炎

**【術前検査所見】** 身長 156.7cm、体重 38.6kg、BMI 15.7

採血検査：TP 6.8g/dL、Alb 4.4g/dL

呼吸機能検査：VC(肺活量) 2.64L、%VC(%肺活量) 93.8、FEV1.0(1秒量) 2.07、FEV1.0%(1秒率) 83.5

**【術後検査所見(4ヵ月)】** 身長 156.0cm、体重 42.1kg、BMI 17.3

採血検査：TP 7.6g/dL、Alb 4.7g/dL

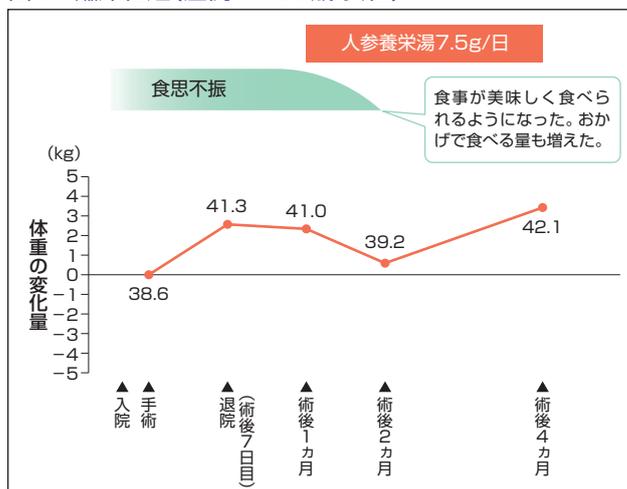
呼吸機能検査：VC 1.92L、%VC 68.3、FEV1.0 1.64、FEV1.0% 86.3

**【治療経過】** 周術期合併症なく経過し、右下葉肺癌 pStage1A1で術後治療なく外来経過観察の方針となった。術前には食思不振、るい瘦を認めしたが、人参養栄湯7.5g/日の投与後は食欲増進があり、投与3ヵ月後の体重は増加傾向(BMI 15.7→17.3)である。術後12ヵ月現在、無再発で経過しており、お元気に外来通院中である。人参養栄湯による有害事象は認めなかった。

## 症例2 75歳 女性(図2)

**【現病歴】** 検診で右上葉結節を指摘され、前医で経過観察となっていた。左大腿骨頸部骨折で当院入院した際の画

図1 臨床経過(症例1 57歳 女性)



像検査で右上葉結節は緩徐に増大傾向にあり、原発性肺癌の疑いでロボット支援下右上葉切除術を施行した。

【既往歴】 糖尿病、高血圧、甲状腺機能低下症、腰部脊柱管狭窄症

【術前検査所見】 身長 142.0cm、体重 52.5kg、BMI 26.0

採血検査：TP 6.5g/dL、Alb 3.8g/dL

呼吸機能検査：VC 2.18L、%VC 101.5、FEV1.0 2.14、FEV1.0% 78.0

【術後検査所見(4ヵ月)】 身長 145.6cm、体重 51.2kg、BMI 24.0

採血検査：TP 6.5g/dL、Alb 3.8g/dL

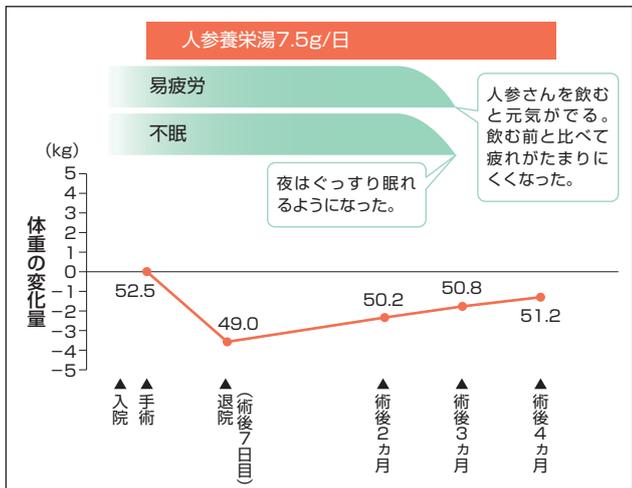
呼吸機能検査：VC 2.12L、%VC 99.6、FEV1.0 1.58、FEV1.0% 76.7

【治療経過】 周術期合併症なく経過、病理診断は右下葉肺癌pStage1A2でテガフル・ウラシル配合剤(UFT)による術後内服加療の方針となった。糖尿病、パセドウ病を始めとした併存疾患があり、術前外来では易疲労性、不眠といった不定愁訴があったが、人参養栄湯7.5g/日の内服後には易疲労性、不眠は著明に改善し、UFT内服もトラブルなく進んでいる。「人参さんを飲むと元気が出ます」とお話しされており、人参養栄湯の内服を継続し、術後10ヵ月現在、無再発で経過している。人参養栄湯による有害事象は認めなかった。

### 症例3 81歳 男性(図3)

【現病歴】 動悸、労作時呼吸困難が徐々に出現したため近医受診された。胸部レントゲン検査にて左下肺野に巨大腫瘍を認めたため、当院紹介となった。胸部CTにて後縦

図2 臨床経過(症例2 75歳 女性)



隔に20cm大の脂肪肉腫を疑う陰影を認めた。また、腫瘍は食道・左下葉・心膜への浸潤が疑われた。

【既往歴】 なし

【術前検査所見】 身長 162.5cm、体重 69.1kg、BMI 26.0

採血検査：TP 6.6g/dL、Alb 3.5g/dL

呼吸機能検査：VC 1.87L、%VC 58.5、FEV1.0 1.41、FEV1.0% 78.3

【手術所見】 Clamshell approachにて後縦隔腫瘍摘出術を行った。腫瘍は巨大であり視野確保のために体外循環使用下で行い、浸潤を認めた食道外膜、左下葉、心膜については合併切除を行った。手術時間は512分、出血量は4210mLであった。

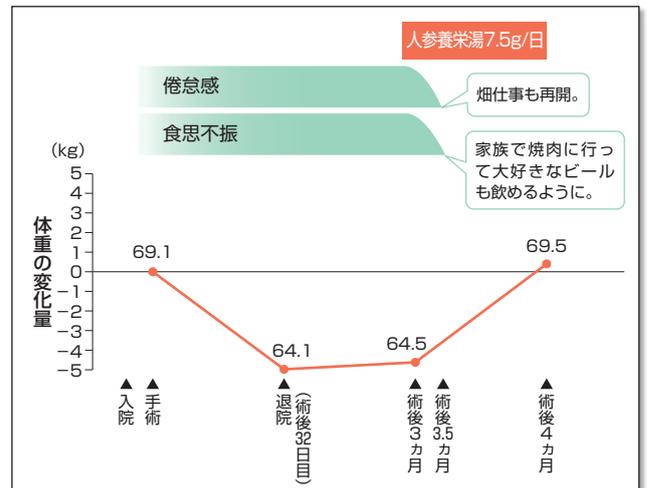
【術後検査所見(3ヵ月)】 身長 162.0cm、体重 64.5kg、BMI 24.6

採血検査：TP 6.9g/dL、Alb 3.5g/dL

呼吸機能検査：VC 1.71L、%VC 53.95、FEV1.0 1.09、FEV1.0% 78.0

【治療経過】 術後合併症はなかったが、離床に時間を要しリハビリ後の術後32日目に軽快退院となった。体重は入院時より5kg減少していた。その後、外来通院していたが、術後3ヵ月経過後も食思不振、全身倦怠感が続いていた。検査所見に異常を認めなかったため、人参養栄湯7.5g/日で内服を開始した。処方2週間後の診察時には、「家族で焼肉に行つて大好きなビールも飲めるようになりました」「一時中断していた畑仕事も再開しました」とお話しされており、症状が著明に改善していた。2ヵ月後の診察時には体重も術前の状態まで改善し内服終了となった。腫瘍の再発なくお元気に86歳を迎え外来通院中である。人参養栄湯による有害事象は認めなかった。

図3 臨床経過(症例3 81歳 男性)



## 考 察

人參養榮湯は病後・術後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振などに用いられる漢方薬である。今回、肺癌周術期においてしばしばみられる疲労倦怠や食思不振の訴えに対し人參養榮湯を投与し著効した症例を報告した。通常、肺癌術後2~3ヵ月では呼吸苦などの症状が残存し不定愁訴が継続するケースが多いが、人參養榮湯を投与したことによって早期回復の一翼を担った可能性がある。

現在当院では原発性肺癌の周術期の身体症状に対する人參養榮湯の有効性を検討するために並行群間比較試験を実施している。調査期間を16週間としているが、症例を集積する過程で人參養榮湯の内服継続を希望する人が多くおり、それらの方々から共通して聞かれるのは「人參養榮湯の内服で食事が美味しくなった」「以前より元気になって出歩くことが多くなった」ということである。今回の症例1のように術後に食事摂取量が増加し、るい瘦が改善する症例を認める一方で、症例2のように併存症を抱える肺癌患者の易疲労性や不眠といった不定愁訴に著効した症例もあった。よって人參養榮湯のNPY神経・グレリンを介した食欲亢進作用<sup>2)</sup>や加齢に伴う小腸機能低下を抑

制する作用<sup>3)</sup>、抗サルコペニア作用<sup>4)</sup>、構成生薬である人參の抗疲労作用<sup>5)</sup>、陳皮の抗不安作用<sup>6)</sup>、遠志の抗うつ作用<sup>7)</sup>が、周術期のみならずその後の生活にも非常に有用である可能性がある。現在のところ、長期の内服による有害事象は認めておらず長期内服症例に関しては追って報告したい。

## 【参考文献】

- 1) 石坂勇人 ほか: 肺がん切除術前後のSF-36による健康関連QOLと6分間歩行試験の関連. 理学療法科学 31: 559-564, 2016
- 2) Goswami C, Dezaki K, Wang L, et al.: Ninjin-yoeito activates ghrelin-responsive and unresponsive NPY neurons in the arcuate nucleus and counteracts cisplatin-induced anorexia. *Neuropeptides* 75: 58-64, 2019
- 3) 唐方 ほか: 加齢に伴うマウスの小腸粘膜の変化に対する漢方薬の作用—六君子湯, 補中益気湯, 人參養榮湯, 半夏瀉心湯エキス剤の作用—. *日東医誌* 48: 7-15, 1997
- 4) Ohsawa M et al.: Effect of Ninjin'yoeito on the Loss of Skeletal Muscle Function in Cancer-Bearing Mice. *Front Pharm* doi: 10.3389/fpar. 2018. 01400
- 5) 藤田日奈 ほか: 人參の抗うつ作用および疲労に対する効果. *phil漢方* 65: 24-27, 2017
- 6) 伊東 彩 ほか: 生薬陳皮の薬理作用—抗不安作用に関して—. *phil漢方* 46: 26-28, 2014
- 7) Yuan Hu, et al.: Possible mechanism of the antidepressant effect of 3,6'-disinapoyl sucrose from *Polygala tenuifolia* Willd. *J Pharm Pharmacol* 63: 869-874, 2011